

○令和7年度 神前ホーム地域連携推進会議（兼 施設訪問）議事録(抄録)

(日程) 令和7年11月18日(火) 15時～15時50分

(場所) 神前ホーム

(参加者) 地域代表(民生委員)(3名): A 民生委員・B 民生委員・C 民生委員(灘区D地区)

利用者: T・K氏、Y・R氏、利用者ご家族: T・K氏ご実兄

神前ホーム事務局(3名): 管理者、サービス管理責任者、世話人

(内容)

A 施設側(神前ホーム事務局)からの説明

1. 「地域連携推進会議」開催の趣旨

今回開催させていただく「地域連携推進会議」は、施設等と地域が連携することにより、「利用者と地域との関係づくり」、「地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進」、「施設等やサービスの透明性・質の確保」、そして、「利用者の権利擁護」をすすめるために開催されるものです。その趣旨から、地域の関係者(民生委員、自治会員など)、利用者家族、(利用者)などに参画いただくこととなっていますが、その開催が令和7年度から義務化されました。今後は毎年開催する予定です。

(根拠:「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準(平成18年9月29日厚生労働省令171号)」第210条の7)

2. 神前ホームについて(運営法人、施設及び利用者)

(1) 運営法人(社会福祉法人 新緑福祉会)について

社会福祉法人 新緑福祉会は、昭和54(1979)年に神戸市手をつなぐ育成会を母体として、知的障害(児)者の親たちが、わが子の幸せを願って設立した法人です。

障害者のしあわせを追求することを理念とし、現在神戸市内において5か所の通所事業所と1か所の入所事業所(短期入所等を含む)、5か所のグループホームを運営しています。

また、神戸市より2か所の相談支援センターと1か所の発達障害者相談窓口を受託しています。

(2) 神前ホームの設立趣旨及び歴史

神前ホームは、知的障害者の男性が、日々地域生活を送るグループホームです。世話人が配置され、食事提供、健康管理、日常生活における相談・助言などを行うとともに

に、夜間は宿直が配置され、入居者の皆さんの自立援助を行うための障害福祉施設（障害福祉サービス事業所）で、入居者の皆さんから利用料をいただくとともに、国（厚労省）や神戸市から障害福祉サービスにかかる給付（収入）をいただいています。

当初、平成9年に一戸建て住宅を借りて開設して、約30年が経過し、この間、多くの方がこの神前ホームで生活を営んでまいりました。

(3) 神前ホーム利用者の皆さんとその日常生活

入居者の皆さんは、平日はそれぞれ通所施設（生活介護、就労継続支援B型）に通い、いろいろな作業や創作活動（書道、散歩、音楽療法（太鼓）など）に従事しています。そして、夕方に神前ホームに戻り、入浴、食事を摂った後、朝までそれぞれのお部屋で過ごしていただいています。土日祝日の日中については閉所しますので、外出などで時間を過ごし、夜はご家族と一緒に過ごしいただいております。

3. 神前ホームの現状及び今後について

(1) 現状及び新・神前ホームへの移行（大規模改修の実施及び定員増など）

上述のように、既に30年あまりが経過し、建物の老朽化もすすんでいます。また、老朽化に伴い、使用できない部屋もあること等から、現在4人定員のうち、2名の利用にとどまっており、収支的にもきびしい状況にあります。

これらのことから、家主様のご理解・ご協力により、来年（令和8年1～3月（予定））に大規模な改修工事を予定しています。工事の細かい内容については、家主の方が工務店と調整中ですが、その間、建物が利用できなくなるため、それぞれ、法人内の別のグループホーム、又は、ご家族のご自宅でお過ごしいただく予定です。

令和8年4月以降については、（今後の職員体制の確保の具合にもよりますが）新・神前ホームとして、これまで閉所していた土日祝日及び年末年始についても、基本的には開所し、年間を通じて暮らしていける「終（つい）の住家」を目指してまいりたいと考えています。

(2) 地域とともに歩む神前ホームを目指して

今回、地域の皆さんのご参加のもと、第一回の「地域連携推進会議」を開催させていただきますが、今後も地域の皆さんのご理解を得ながら、知的障害のある入居者の皆さんの自立し、安定した暮らしの場として歩みつつければ、と考えています。

B 質疑応答（抄録）

（冒頭、各人から自己紹介）

利用者ご家族（T・K氏兄）：いつも弟（T・K氏）がお世話になっております。弟は週末はわたしの家に帰ってまいります。本当に長い間、何十年とこの神前ホームでお世話になってまいりました。地域の皆さんとも仲良くしていただければ、と存じます。よろしく願いいたします。

利用者（T・K氏及びY・R氏）：（日中の通所施設や神前ホームでの暮らしを簡単に説明）

A 民生委員：（わたしが関わっていた）ある施設では、以前、清掃業務を障害者の方が担っておられ、接点がありました。でも、一般の方はなかなか接点がないのでしょうか。

神前ホーム事務局：確かに、まず、接点を持ち、知っていただくこと、そして、関心を持っていただくことが、全てのスタートです。きょうのような会議を繰り返すことで、開かれた事業所になっていくでしょうし、なっていけばいいですね。

B 民生委員・C 民生委員：今日は、いろいろとご説明ありがとうございます。また、実際にお住まいの利用者さんやご家族の方ともお会いできてよかったです。以前から、この建物の前を通るたびに“この建物は何だろう？”と気になっておりましたが、今回、会議にお招きいただき、障害のある皆さんが日々暮らしておられる施設だと伺い、得心いたしました。

今後もわたしたちと同じ地域に住む隣人として、いい関係性をつくっていただければ、と思います。よろしく願いします。

利用者ご家族（T・K氏兄）：ちなみに、弟（T・K氏）は、わたしの家のエリアで地域清掃にも参加しているのですが、指導いただく方がいらっしゃった方がいいですね。

C 民生委員：それぞれのエリアに地域行事がありますよね。この地区では12月に昔あそびと餅つき大会があります。よかったら、また、ご参加ください。

神前ホーム事務局：今回、「地域連携会議」というかたちで、利用者さんと保護者の方と地域の皆さんが同じ地域で暮らす一員として、顔合わせいただき、また、お話しただけは、とてもよかったです。

この会議は今後も毎年開催されますが、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。本日はお忙しい中、ありがとうございました。